

平成 29 年度 東京都立富士高等学校附属中学校 学校経営報告

1. 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

「チーム富士」の自覚をもって、学校経営計画を確実に履行していく。また、常に分掌・学年・教科・経営企画室との連携を重視し、横串を意識した企画調整会議と教科主任会議を軸として学校経営をする。

各分掌は、年度初めに組織目標・数値目標を設定し、10月にプロセス評価を交え、年度後半の取組を再設定し、組織として明確な数値目標をもち、年度末の目標ほぼ達成となった。教科主任会は学力向上の要の組織として数値目標の設定進行管理に留まらず、教育庁指導部高等学校教育指導課進学対策班の助言提言を受け、国公立受験レベル設定値を模試活用指導に組み入れ教職員全員で共有し、生徒指導に役立てた。また、新大学入試、指導要領改正に伴う思考力・表現力の育成のために、定期考査問題の設定について、初見問題及び記述問題の吟味と採点基準についての教科会議を指示した。教科主任会議決定事項については、企画調整会議の随時報告し、周知徹底を図った。

(2) 重点目標への取組と自己評価

学習指導

考える力を育成する「富士授業」に基づく授業第一主義を推進する。

①シラバスをベースに到達すべき目標から逆算した定期考査で成果を検証する。生徒に予習・復習を促し、達成感が得られる授業を展開する。放課後スタディや富士サポート等の講習で生徒の学力向上を確実に支援する。また、自習室や自主学習支援学生を配置した理数質問教室を活用させて、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢や態度を育成する。

教科主任会議は10回/年で、定期考査5回に加え総合考査3回(振り返り学習)で学習の定着度を確認しながら、富士サポートを組織的に運営した。

英語・数学の習熟度別授業により、生徒一人ひとりに対応しながら、全体の学力定着度の向上を図った。習熟度別授業の効果について中学1年84%、中学2年68%、中学3年58%が有用感を持っている。また、学習指導について中学1年97%、中学2年84%、中学3年61%保護者89%が、教員の指導を熱心であると認知している。

②課題の複線化を図ることによって、朝学習や放課後学習等を効果的に融合させた学習環境を確立させる。教科主任会を機能させ、データ分析に基づく学習戦略を徹底する。また、教員は各自の端末で模試分析ソフトを駆使したデータ分析を実施して、データに基づく指導を実践する。

年に2回模試分析会を実施するほか、夏期休業中に教育機関による研修を21名の教員が参加受講し、教科会議にて成果を報告し、実践に取り組んだ。また、課題分量と内容の整理をし、課題の複線化について強化した。

③理数アカデミーに関連する土曜講座などを積極的に企画し、実物を実感できる機会を提供し、科学技術分野への理解を深めさせる。また、東京大学と連携し、放課後を活用した「体験型起業家育成ワークショップ」や「理科実験教室」などを実施する。

探究未来学の探究活動についての課題であった①探究活動に相応しい課題の設定②根拠となるデータ収集と分析③仮説設定までの思考方法について改善するためにプロジェクトチームで年間授業計画とワークシート作成をした。これにより、次年度は生徒によるクリティカルシンキングを手法とした主体的思考活動を組織的に育成していく。

中学生科学コンテストに出場し、知識部門でB評価を得ることができた。また、科学探究部が小石川中等教育学校での研究発表会参加、第1回PDA中学生即興型ディベート全国大会に出場し、受賞した。

また、シリコンバレー・アメリカ研修旅行に向けたアメリカ講座を中1、中2を前期・後期で6回実施し、H29年度研修旅行参加者選抜を実施し、42名を選抜した。

さらに、1年間の生徒の学習活動の成果集【2017 FUJI PORTFORIO】を編纂し、生徒全員に配布し、次年度以降の学習活動の起点を示すことにより、本校の生徒学習活動を向上させる

生活指導

「育てるプロ(育師)」の自覚をもって、社会を生き抜く力をもったリーダーとして「責任感」、「思いやりの心」を身に付けた生徒を育成する。また、種々の部活動や学校行事を通して、団体戦を意識して協働し、互いに高め合う生徒を育成する。さらに、道德教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して心を耕す教育に取り組む。

①学校行事・部活動で団体戦を意識させ、帰属意識・成功体験を身に付けさせる。始業式や終業式及び年11回の朝礼においては校歌を全員で大きな声で斉唱した。道德教育推進教師を中心に、全教育活動を通して規範意識の向上や心を耕す教育に取り組む。

体育祭・文化祭・合唱祭の3大行事において高校生や先輩の取り組む姿を模範に、主体的に取り組む生徒の行事・部活動の満足度は生徒81%、保護者85%と高い評価を得ている。

9月24日実施の道德地域公開講座では、35人の保護者の方々と意見交換ができ、道德教育の取組を理解していただくいい機会となった。

②給食指導、特別支援教育の視点をもった個別指導、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見及び防止の組織的指導の充実を図る。説明責任を果たし、丁寧な保護者対応等により生徒への指導を深めていく。

管理職、学年担任、特別支援コーディネータ、スクールカウンセラー、養護教諭とで組織する教育相談委員会を10回/年実施し、スクールカウンセラー相談、保健室利用状況、生徒状況を組織的に把握し、生徒対応に努めた。体罰、いじめアンケートを3回/年実施しながら、生徒の声に傾聴する機会を作り、生徒の支援体制に努めた。

スクールカウンセラー及び臨床心理士精神保健福祉士を招聘し、青年心理学校内研修会を実施、ギフトド等の知識を深めた。いじめは早期発見し早期対応することにより、中1ショックに対応した。結果、教員の信頼は、生徒中学1年生は64%、保護者は全体で58%が評価している。今後も引き続き、組織体制を充実させていく。

③セーフティ教室や防災教育を計画的に実施し、生徒の安全意識・防犯意識を高めさせる。また、「SNS 校内ルール」を策定し、SNS にかかわるトラブルの未然防止に努める。

防災教育として 11 回／年の避難訓練、春秋の交通安全運動に合わせて交通安全教室、夏季休業に入る前に薬物乱用防止教室を実施するほか、朝礼や学年集会、全校集会において学校安全教育年間計画に基づき実施した。

道徳の時間を活用し、クラスごとに SNS 校内ルールについて話し合いを持たせ、共通理解をもたせた。生徒会が自主的に取り組んでいる。

生活指導に関して、生徒 80%、保護者 78%、地域 88%が好評価を出している。

特別活動・部活動

「富士」の誇りが醸成できるよう、目標に向かって活動する生徒を積極的に支援する。

①部活動では部「一部活一地域貢献」で地域社会への貢献を果たす。職場体験等で地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。環境問題など大きなテーマを保護者や地域の支援で学ぶ機会も提供する。

中学 2 年で職場体験を実施し、協力機関から生徒の活動について高く評価を受けた。また、弥生町地域運動会に部活動で応援参加し地域貢献を果たした。中野特別支援学校と生徒会・部活動交流を実施した。オリンピック・パラリンピック教育事業として元 J リーガーによる講演とサッカー部指導を実施した。

進路指導

「進学のプロ」の誇りをもって、生徒の高い進路希望を実現する指導を組織的に実施していく。

①分掌と学年と教科が一体となって共通の戦略で生徒を指導する。進路指導計画に基づき、意図的・計画的な学習の積み重ねを重視した策を展開していく。

②生徒の進路について丁寧に意図的・計画的なガイダンスを実施し、キャリア計画に基づき、生徒の学ぶ意欲を高めていく指導を展開する。

高大接続改革に合わせ、教科主任会議で、定期考査への初見問題の導入宇・記述問題の精選を図ることを進めた。

東京都学力推移調査の経年比較を実施し中学 2 年から中学 3 年への推移に注視するとともに指導に力点を置くことを徹底した。

中学 3 年生の東京大学模擬試験の受験者が昨年度の 8 人から 50 名と飛躍的に伸びた。この結果分析により、生徒の学力を多面的に把握し早期の進学指導体制を構築した。夏季休業中に英語短期集中講座を 3 日間実施した。進学指導に対し、生徒、保護者ともに 74%の満足度であ

③進路学力部が進路情報及びデータを一元管理し、全教職員に進路情報を共有させる。生徒個々の成績推移や志望・指導の経緯などを網羅した「個人カルテ」を作成する。一人一人の定点観測を行い、計画的な成果検証を交えて、生徒の学力向上に向けた支援を行う。

④放課後スタディ・富士サポートシステムなどで一人一人の生徒の学力の向上を図る。また、各種検定講座などを朝や放課後及び長期休業日等に企画・立案し、生徒を支援する。

⑤家庭学習時間を確保させ、自習室の活用を積極的に呼びかけ、団体戦（学び合い、教え合い）を意識させて、生徒の文武両道を支援する。

⑥団体戦を支援するため、学年集会や保護者会を通して生徒に寄り添った進路指導を展開する。

募集・広報活動

「チーム富士」の教育実践を総務部主導の下、塾や小学校に広く紹介し、本校が期待する生徒を集める。そのために、学校公開、学校説明会、部活動体験入部を組織的・計画的に実施する。

①ホームページで学校情報を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民に公開する。

ホームページを中学と高校を統合し、わかりやすい形式に改善した。更新頻度は目標である500回／年以上を達成した。中学校生活や教育活動の様子をわかりやすい内容で、広く都民に公開した。学校案内パンフレットの刷新、学校説明会の内容改善など理数アカデミー指定校としての取組を積極的に発信した。

②全教職員の連携・協力の下に、授業公開、学校説明会、適性検査問題解説授業等を実施して、「受検したい学校」にする。

適性検査実施分析を行い、本校の期待する生徒像との合致をめざした広報を展開した。学校見学会、学校説明会の小学生・保護者の参加は昨年比1.1倍、応募倍率は5.44倍と昨年比1.1倍と伸びた。

2. 実績：

(1) 模試分析会 2回

(2) 中1・中2は学力推移調査を年3回、中3は年2回実施（ ）は前年度
英語・数学・国語の3科目におけるランク別人数は以下のとおり

Cランク 中1： 0 (5) 中2： 4 (1) 中3： 3 (2)

Sランク 中1： 15 (10) 中2： 7 (16) 中3： 32 (15)

(4) 中3はk e i-S A Tにおいて、スコア525到達の生徒 12.5%
(前年度：未実施)

(3) 中3の1月実施の東大模試受験者数 50名 (8名)

(4) 学年末までに英検準2級以上を取得する生徒の割合 50%

中学3年 英検1級合格 1名 (前年度：中3…50%)

(6) 学年末までに英語の多読で6万語を突破する生徒の割合 62% (前年度：56%)

(7) 新体力テストの全ての種目で、平均値で全国平均を女子は全種目、男子は5種目上回る。
(前年度：5種目で平均以上)

(8) 部活動の加入率 86% (前年度：93%)

(9) 学校評価アンケートの項目「私は毎日予習・復習を行い、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的な評価 58.5% (前年度63%)

(10) 学校評価アンケートの項目「私は部活動や学校行事に満足している」に対する生徒の肯定的な評価 81% (前年度：79%)

(11) 生徒一人あたりの年間読書冊数を50冊以上にする。

(12) 年間皆勤の生徒の割合 中1：31% 中2：31% 中3：20%
(前年度：中1…40%、中2…26%、中3…20%)

(13) 土曜日授業公開（土曜日学校説明会も含む）の合計来校者数4800名（前年度：3403名）

(14) 適性検査応募者数を平均5倍以上にする。 5.03倍 (前年度：5.44倍)

(15) 理数アカデミーの活動として、放課後や土曜日の午後に外部人材活用

理数質問教室を49回、理科実験教室を8回、理数ワークショップを13回。

(16) 理数アカデミー関連講座参加者数

年間のべ2943名

(17) 教育相談員会を年間10回、思春期心理についての研修会を8月に実施し、体罰事故を0件。

3. 次年度以降の課題と対応策

学習指導

学力推移調査のランク別人数を目標値に近づけることが課題である。

○授業力向上に向けた研修予算を確保し、授業力向上を図り、教科主任会議で学力定着率把握方法を検討する。相互授業参観を導入し、組織的に授業力の向上を図る。

また、教科会で模擬試験、定期考査、総合考査の目標設定値を明確にし、実施後検証し授業改善につなげる。

理数アカデミー校として、組織的に内容の充実を図ることが課題である。

○探究活動の初期段階の活動計画、ワークシートの改善定着を図ながら、高校探究未来学の授業計画を構築する。本校の探究活動の発展をめざし、教員の研修を実施する。○シリコンバレー・アメリカ研修旅行の実施については準備を怠らず、実施後は還元報告及び研修について検討する。

生活指導

基本的生活習慣の確立を課題とする。

○挨拶の励行を学校全体で意識的に実施していく。

スクールカウンセラーとの教育相談委員会を充実させ、個々の生徒指導を細やかに実施する。

思春期心理を校内研修会の主題として実施し、思春期の自立を教職員全員で研修する。

特別活動・部活動

○地域貢献を継続し、地域に受け入れられる学校を継続し目指していく。

○教員の防災組織を明確にし、それぞれの役割を意識した防災訓練の実施、さらに副読本の充実した活用による防災教育を組織的に実施する。

○オリンピック・パラリンピック教育として、英語教育・生活指導と合わせ、挨拶やおもてなしの意識の育成、国際理解・連帯感・帰属意識の滋養に努める。

進路指導

高大接続改革・新指導要領に対応する進学指導が課題である。

○高大接続改革・新指導要領について情報を的確に収集すると共に、新たな指導要領に基づく求められる学力について校内研修を実施し、授業・評価に反映していく。

○高い目標を持てるよう、進路指導をし、団体戦で臨む指導を充実させる。

募集・広報活動

理数アカデミー校、中高一貫教育校として教育活動を都民に広く広報し、本校の期待する生徒像に同意し合致する生徒の募集に努めることが課題である。

○ホームページ・学校案内等の改善を図り、継続し、広く都民に教育活動を理解できるようにする。

○適性検査Ⅲの作成について研鑽し、本校の求める生徒像の資質が活かせる選考を目指す。